しあわせを
共に産み出す党
日本共産党

みなの民報

２０１６年８月２８日
第１７８０号
発行　日本共産党皆野町委員会
TEL　６２－６７３３

第４８回 秩父音頭まつり
今年も盛大に！

８月１４日の秩父音頭まつり流しコンクールには、７０組のチーム（１６５７人）が出場しました。

午後４時３０分、最初のチーム秩父鉄道社員有志が、町営バス発着所のところからスタートしました。

ことし、第一番踊り会場（矢尾前）のお囃子は、子ども達が中心の皆野社中の皆さんが受け持ちました。

小学生や小さな子ども達はそろいのユニホーム姿が多く、中学生女子の部活チームはゆかた姿がすてきでした。

秩父音頭の踊りには和服が似合います。年々和服のチームが増えてほしいものです。

《流し踊りコンクール成績》

特　賞　埼玉県知事賞
　　富士見太鼓の会
第二位　県物産観光協会長賞
　　皆中女子ソフトテニス部
第三位　ＮＨＫ賞
　　ザ・かもめ

―祭りを見た町民の声―

審査員のために舞台が設けられているようだった。それもあっという間に終わる距離。場内一周踊るのを見たいと思う。また最後に観客も一緒に踊る参加型の祭りであってもいいかな。一回行ったきりでやめてしまった。

「押し付け憲法」論を否定
憲法９条は日本側から提案

戦争放棄をうたった憲法９条のアイデアは、幣原（しでハら）首相（当時）が連合国軍総司令部（ＧＨＱ）最高司令官マッカーサーに提案したという学説を補強する、新たな史料を堀尾輝久・東大名誉教授が発見しました。

安倍晋三ら改憲勢力が主張する「今の憲法は戦勝国に押し付けられたもの」とする論拠を覆す内容です。秋の臨時国会から憲法審査会で改憲論議がねらわれるなか、憲法の制定過程をゆがめて議論をすすめることは許されません。

反戦・平和の大きなうねりが

幣原首相が、こうした提案をした社会的背景には、何があるのか。堀尾氏は平和思想、国内外の反戦の流れを指摘します。

安倍首相は、今秋から国会の憲法審査会を動かすとのべ、改憲に執念を見せています。

堀尾氏はこう強調します。

「９条は日本国民が求めてきたものであり、だからこそ国民は改憲を許してきませんでした。同時に、憲法の制定過程からも占領軍の押し付けではなく、日本側の提案を受けたものであることが明りょうになっています。世界中が戦乱の危機にある今こそ９条の理念を世界に広げ、平和を築いていく方向でこそ議論するべきです。これは憲法前文が求めていることなのです」

しんぶん赤旗　日刊紙より